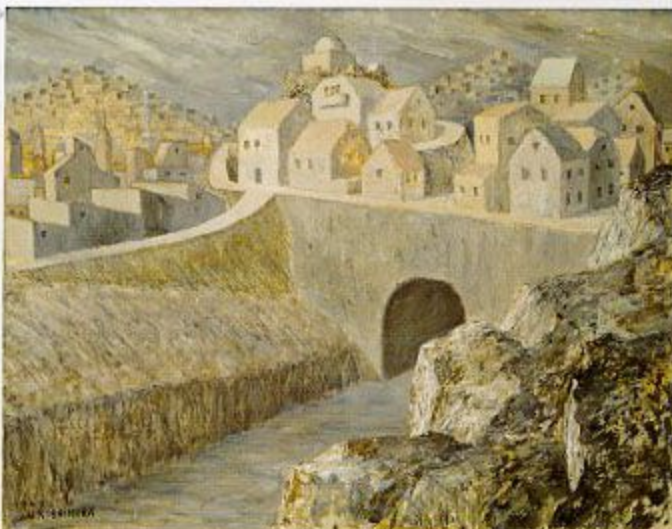
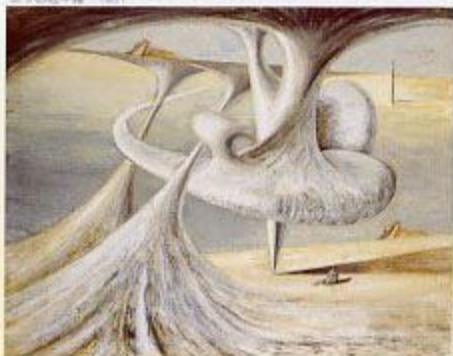


二つの地球儀 1961



Nishimura Motosaburo

特別展 西村元三朗回顧展

2006 10月14日 **土** ▶ 2007 1月14日 **日**

変動 1958 神戸市立小磯記念美術館蔵



◇11月29日から一部展示替をいたします

同時開催 ■ 小磯良平作品選Ⅳ

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、2006年11月28日、12月29日～2007年1月3日

開館時間 午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

入館料 大人700円(550円)、高大生500円(400円)、
小中生300円(200円)
☆()内は30名以上の団体
神戸市老人福祉手帳(すこやかカード)
持参の方350円
※11月18日(土)、19日(日)の関西文化の日は入館料無料

交通 JR住古駅、阪神魚崎駅のりかえ
六甲ライナー「アイランド北口」駅
下車西へ徒歩すぐ

主催 神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社

後援 NHK神戸放送局、サンテレビジョン、
ラジオ関西



神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL.(078)857-5880

http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/

西村元三朗回顧展

西村元三朗(1917-2002)は、神戸市に生まれ、神戸で活躍した画家です。1942年、美術を学ぶために小磯良平のもとを訪れ、デッサンの基礎を教わった西村は、その後、小磯らの結成した新制作派協会

に参加し、時には小磯から制作に関するアドバイスを受けることもありました。西村の作品には静寂で詩的な雰囲気が漂い、日常目にする、建造物のある風景をもとに表現された巨大空間は、私たちを、謎めいた未知なる世界へと誘います。

この巨大空間に現れた不思議な建物や人物、ばらばらのように見えながらも関連しつつ浮遊する物体、ダイナミックな動きを見せる物体が、いかにして出現したのか。西村は作品に関する言葉も多数残しています。

「西村君は戦前私のアトリエで最初に絵の手ほどきをうけた人で私にしてみれば変わった人が出たものだと言う気持である。彼は今日すでに特異な地位を確立している人である。大切にしたい」と小磯が評した西村の画業を、油彩、素描あわせて約70点の作品で紹介いたします。



- 1 春 1942年
神戸市立小磯記念美術館
- 2 春 1947年
神戸市立小磯記念美術館
- 3 教会 1948年 国民公会会館
- 4 自のある丘 1949年
- 5 気象台 1949年
神戸市立小磯記念美術館
- 6 鐘楼 1950年 神戸市会館
- 7 対顔 1952年
神戸市立小磯記念美術館
- 8 空階 1953年
神戸市立小磯記念美術館
- 9 九月の碑 1973年

会期中のイベント

- 講演会 11月5日(日)午後2時～3時 講師:当館学芸員 辻 智美
「西村元三朗の画業と作品」
- 解説会 毎週日曜日 午後2時から(約30分間)
当館学芸員によるスライド解説
- 美術館大作戦4「西村さんの不思議世界に挑戦!」
11月23日(木・祝)、25日(土)、12月2日(土)、12月23日(土)
各日とも午後1時30分～午後4時
対象:小学1年生から中学3年生 各回20名募集(申し込みが必要です。
詳しくは美術館にお問い合わせください。)
- ORICアートカプセル 2006(美術館周辺で開催)
10月21日(土)、22日(日) 期間中、館内で楽しい鑑賞プログラムを実施します
- ロビーコンサート 12月9日(土) 午後2時から 神戸市室内合奏団
- スペシャルロビーコンサート 12月23日(土) 午後2時から
顕栄短期大学 ハンドベルクワイヤーのみなさん
- アトリエ解説 開館日の午前11時と午後2時から 約20分間
インフォメーションスタッフによる案内
※イベント開催時は時間を変更します。